

# 外来服薬支援を行った 患者背景についての考察

(株)ダイチク にいがた調剤薬局

○平野 智弘 井上 幹雄 月岡 良太 大石 美也

## 目的

本年4月の調剤報酬改定において、服薬コンプライアンス向上を目的とした「外来服薬支援料」が新設された。この技術料は、残薬の活用による医療費抑制の意図もあり、今後の調剤報酬改定において薬剤師職能の評価に影響を与えるものと想定される。そこで、この技術料を算定、もしくは算定に結びつかないまでも「外来服薬支援業務」を行った患者背景を調査、分析し、患者の服薬コンプライアイス、QOLの向上に対し、薬剤師の果たすべき役割を模索することを目的とした。

## 対象及び方法

対象: 平成20年4月1日から8月31日の5ヶ月間に  
にいがた調剤薬局全19店舗に来局した患  
者のうち外来服薬支援を行った33人(のべ  
35回)

方法: 外来服薬支援を行った場合、薬剤師が調  
査票に必要事項を記入  
次回来局時に支援後の評価を患者に確認

### 調査票

店舗名

記入日 月 日

担当薬剤師: 氏名

1. 来局者: 本人・家族・その他
2. 持参医薬品: 当該薬局調剤・他薬局・病院(外来)・病院(入院)(複数回答可)
3. 患者年齢: 歳
4. 患者性別: 男 · 女
5. 整理した薬剤の内容(用法、用量、日数、診療科)
6. 整理した以外に服用中の内容(薬品名、用法、用量、日数、診療科)
7. 元の調剤形態: 一包化 or ヒート
8. 整理後の調剤形態:
9. 残薬がたまってしまった原因:  
飲み忘れ(その理由も)・受診日数重複・退院時処方との重複・その他
10. 今までに医師へ残薬整理(日数調節)を申し出たことがあるか: 有 · 無
11. 外来服薬支援料の算定: 済 · 不可
12. 残薬整理後の患者評価
  - ①役立っていない
  - ②まだよく分からない
  - ③やらないより良かった
  - ④やってもらってよかった
  - ⑤今後の薬剤管理に非常に役立った

## 残薬持参者

その他の介護者

15.2%(5)

家族

18.2%(6)

本人

66.7%(22)

n=33

## 患者背景

### 性別

男性:15名 女性:18名

### 年齢

全体の平均年齢: 77.9 ± 9.8 歳

### 医師への残薬の申し出

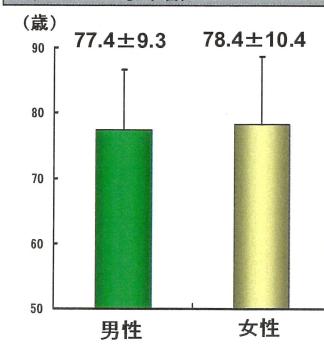
なし 72.7%

あり 27.3%

(9名)

### 外来服薬支援料の算定状況

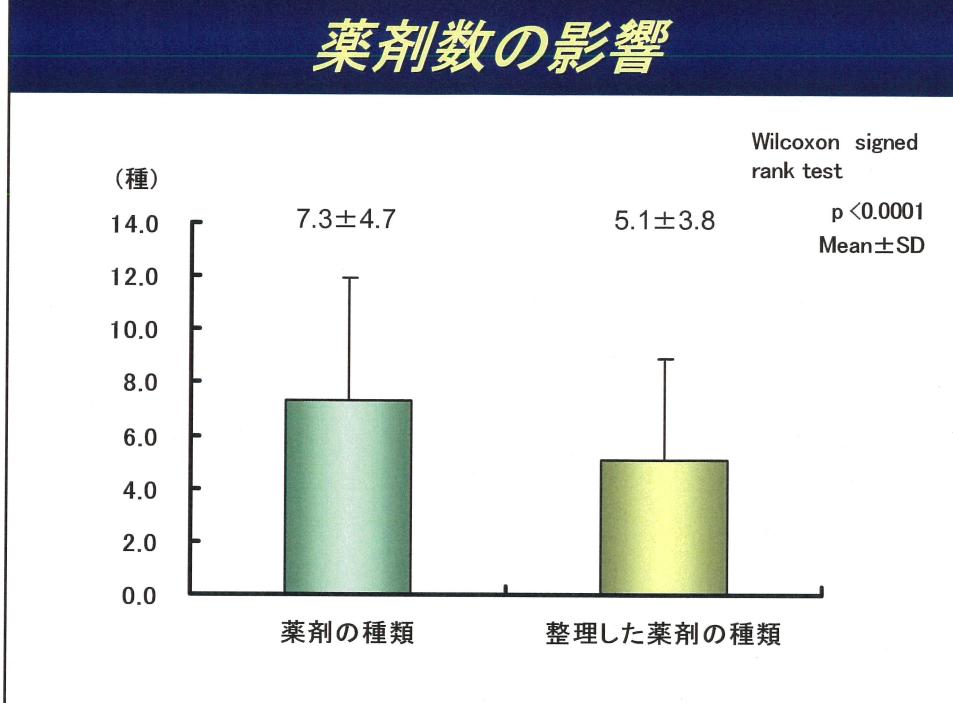
算定 85.3%



Student t test NS  
Mean ± SD

※ 非算定は、処方せん持参日のため

## 薬剤数の影響



## 用法の影響

服用中薬剤の用法	件数
毎食後、寝る前	9
毎食後	5
朝・夕食後	5
毎食前、毎食後	3
朝・夕食後、寝る前	3
朝食後	3
起床時、毎食後、寝る前	2
朝・夕食後、寝る前	2
毎食直前、毎食後、寝る前	1
毎食直前、朝・夕食後	1
朝・夕食前	1

残薬整理した薬剤の用法	件数
毎食後	11
朝・夕食後	8
毎食後、寝る前	6
朝食後	5
毎食直前、朝・夕食後、寝る前	1
毎食直前、毎食後	1
毎食直前、朝・夕食後	1
朝・夕食前	1

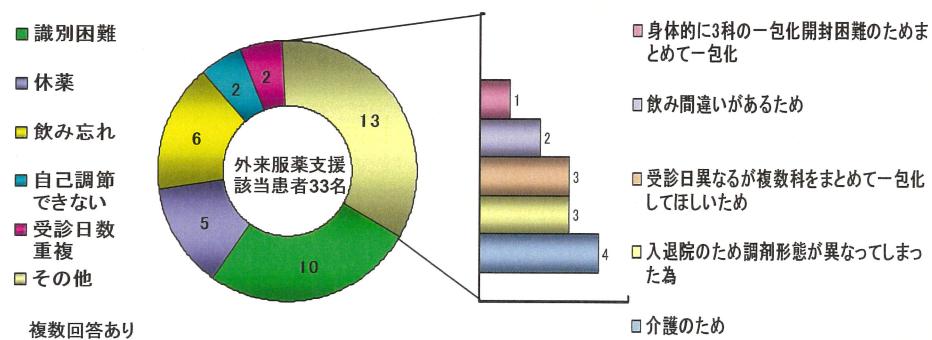
## 調剤形態の変更

		変更後	
		ヒート	一包化
変更前	ヒート	3	17
	一包化	0	15

(回)

## 残薬の原因

### 【その他の中訳】



## 外来服薬支援後の評価

役立っていない

0名

まだよくわからない

0名

やらないよりよかった

0名

やってもらってよかった

17名

今後の薬剤管理に非常に役立った

2名

(35名中19名回答)

## まとめと考察 - I

1. 服薬支援を行った患者は女性が多い傾向であったが、年齢では男女で有意な差は無かった。つまり、女性は年齢に関係なく自己の薬剤管理に対して前向きな姿勢が伺える。このことから、男性には、薬剤師が積極的にアプローチに行うべきである。
2. 服薬支援を行った患者のうち医師へ残薬の申し出をした経験のある患者は33名中9名と少なく、残薬について医師に申し出しねらいと患者が考えていることが推察される。
3. 服用中の薬剤数より服薬支援を行った薬剤数が有意に少なかったことから、単純な飲み間違いからの残薬ではなく、特定の条件の薬剤が残ることがわかった。

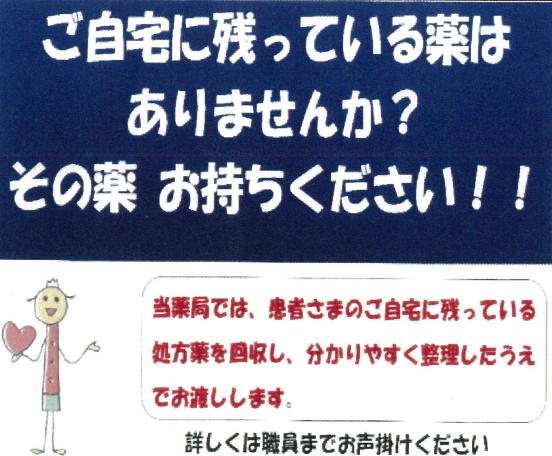
## まとめと考察ーⅡ

4. 服用中の用法も支援を必要とした用法も1日3回の用法が関与しているケースがそれぞれ約2/3を占めた。このことから、服用回数が多いことは、残薬の原因のひとつであることが推察される。服用回数が多い場合は、積極的に一包化の提案を行すべきである。
5. 外来服薬支援によって85%がヒートから一包化に形態変更されたことから、服薬管理における一包化の有用性が示された。
6. 残薬の原因として識別困難が一番多く30%であった。当社の別の調査では、一包化調剤が必要な理由のうち識別困難は第2位23%であったことから、識別困難を抱えている患者を薬剤師が把握できていない可能性があり、来局初期では薬剤の識別が可能であったとしても、日々変化していく患者の状態を詳細にかつ継続的に把握していくことが重要であると考える。

## 結語

用法や調剤形態を踏まえたうえで、患者の状態を継続的に把握し、識別困難などの状態変化を早期に発見し、服薬支援を行うことは、保険薬局に求められる重要な責務の一つである。

■店舗内ポスター



■患者様用ビニール袋  
リニューアル

にいがた調剤薬局

残っているクスリを整理致します  
お持ちください

2008.2.29(火)開始  
2008.2.26(月)  
2008.2.25(日)  
2008.2.24(土)  
2008.2.23(金)